

羽咋の2団体 ゆかりの国学院大訪問

折口博士の功績 首都圏でPR

羽咋市ゆかりの民俗学・国文学者で歌人の折口信天博士の功績を広めたいと、羽咋高同窓会と「ふるさと関東羽咋会」が首都圏でのPRに乗り出した。関係先訪問や会報での周知を積極的に展開し、第1弾として3日に博士が教壇に立った国学院大を訪ねた。今年、羽咋高創立100周年、来年の博士没後70年祭の節目に合わせ、会員同士の絆を強めるきっかけにもしていく。

大阪出身の折口博士は国学院大を卒業後、教授となり、門弟だった羽咋出身の藤井春洋との出会いを機に羽咋に通うようになる。1944(昭和19)年に春洋を養子に迎えたが、春洋は45年に戦死。本人の希望で羽咋市一宮町の父子墓に埋葬された。博士は羽咋高の校歌を残し、その謝礼を固辞した一方、校庭にある

折口博士の足跡をたどる在京の羽咋関係者—国学院大



「賞」創設も検討

鐘社の鐘を奇贈している。民俗学の礎を築き、「折口」と称されるまでの功績を学」と称されるまでの功績を伝えた。若い世代にも足跡を

からめつなかりを知る人は同会の中にもそれほどいなかった。このため郷土の魅力再発見を促すことにした。博士の命日の3日は、地元で営まれた没後69年祭に合わせ、同会の11人が国学院大博物館を訪ね、博士の論文集や当時使っていた別荘を再現したコーナーを見学した。

4日は都内で両会役員らが今後の活動について打ち合わせ。24日には羽咋市折口父子記念会の藤田豊都事務局長を講師にオンライン講演会を開く。両会の会員数は延べ約2200人で、会報を通じて継続的に周知する。ふるさとの善行や母校を盛り上げる取り組みに対し、博士の名を冠した賞を創設することも提案していく。

羽咋高同窓会と和智恵副会長(66)は「一年を重ねるごとに折口先生が残した校歌の良さが分かるようになってきた」として歌い継ぐ決意を新たに示した。ふるさと関東羽咋会の事務局を担う上田寛さん(38)は「国学院大でもこれまで大きく扱われているのに、羽咋関係者が十分知られていないのはもったいない」と語り、若い世代にも足跡を

- 吹奏楽部、剣道部、柔道部他への応援、差し入れ。
- 在京他高校の同窓会、県人会との交流を積極的に推進(準備、協力)。
- 折口顕彰のため、国学院大学博物館、国学院大学多摩校舎：小川教授訪問。シンポジウムに参加し、交流推進。
- 校歌三兄弟について、二水高校、大聖寺高校、羽咋高校三校の交流推進。
- 同窓会応援のため発表会、展示会など催事に参加し、新聞社、加能人、県人会会報に掲載要請。
- 在校生への合格祈願マスクの提案と準備協力。
- オーストラリア・ワンサギ校ホームステイ28名への気多大社御守り贈呈。OB教師の表敬を校長、宮壽先生の協力を得て遂行。
- 会報「絆」を自主発行。(在京同窓会で唯一)
 - ・内容充実を努め、母校各クラスに配付。(将来の参考にしてほしいとの主旨)
 - ・各支部長、副支部長、事務局、PTA役員にも配布し、母校、同窓会の活性化について意識の共有を図る。
- 石川県観光特使の活動を推進し、9年間で羽咋高校OB40名が着任。PR、誘客に協力。
- 同窓会組織として委員会制度を活性化。達成できつつある。
- Zoom、LINEでの会員への情報共有拡大。
- 本部への提言を継続し、部活動訪問、同窓会館での懇談会を実現。折口賞実現に向けて活動中。

母校の受験生に合格祈願マスク
羽咋高同窓会贈る

羽咋高校(羽咋市)の同窓会は九日、大学受験を控えた母校の三年生百九十三人に、羽咋神社で合格祈願をしたマスクを贈った。轟千栄子会長が同校で、代表の生徒会元副会長二人に手渡した。

マスクは日本製の高性能フィルター不織布で、一セット七枚入り。市村昭代史副会長の糸加工会社で作ったのも使っており、長時間着けても耳が痛くならないという。関東同窓会からの提案で初めて寄贈した。

轟会長は「心のこもったマスクで安心して受験して」と呼び掛けた。国公立の二次試験を控える中村佳世さん(心)は「先輩の気持ちに込められるよう勉強を頑張る」、大坂空さん(心)は「マスクを着けて感謝の手紙を書きたい」とお礼を述べた。(松村裕子)

轟千栄子会長(左)がマスクを受け取った中村佳世さん(左から二目)、大坂空さん(同三人目)と羽咋高で